

地域ケアネットワークだより

温海地域 第1地区～第4地区福祉懇談会のご報告 令和6年12月1日発行

温海地域では、担当の民生児童委員が中心となり、4つの地区ごとに自治会長や地域福祉、行政等の関係者が集い、「福祉懇談会」を毎年開催しています。

市民の福祉や安全に携わる人たちが一堂に会して話し合うことで、身近な地域の課題解決に向けた連携強化を図っています。

今年度のテーマ

『支え合いの地域づくり ～もしもこんな人がいたら』

今年度は、架空の3名を設定して、何が課題で誰がどんな支援ができるかグループごとに話し合いました。（裏面で紹介）

- ①A夫さん…首都圏からUターンし一人暮らしの68歳
- ②B子さん…軽度の認知症状がある一人暮らしの80歳
- ③C吉さん…介護が必要な奥さんと二人暮らしの85歳

あなたは困ったとき 「助けて」が言えますか？

グループでの話し合いの前に、「あなたは『助けて!』が言えますか？」という紙芝居を上演しました。

多くの方は、他の人が困っていたら「助けてい」と思うのですが、自分が困った時になかなか「助けて」とは言えないという現実を紹介し、身近な地域でできる「支え合い」を考えることの大切さについてお話ししました。



【第1地区(10/1)】



【第2地区(10/21)】

地区福祉懇談会 参加者

自治会長、民生児童委員、鶴岡市消防署温海分署、鶴岡警察署温海交番(駐在所)、介護事業所、鶴岡市温海庁舎(市民福祉課、総務企画課)、温海福祉センター、地域包括支援センターあつみ

周りができる様々な支援のアイデアが出されました。

設定	主な支援案
<p>①A夫さん 男性・68歳・一人暮らし 16歳から首都圏で生活 近年実家にUターン 建築業経験・野球好き…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人との関わりが少ない ⇒ 地域の行事に誘う(自治会・同級生など) 野球観戦や飲み会に誘う(同級生など) ○食事・栄養のかたより ⇒ 弁当配達利用、料理教室開催 ○職歴を活かす ⇒ 修繕などを依頼、地域での「出番」を作る(自治会など) シルバー人材センターに登録 ○近所の人との声掛け・見守り、親戚との連絡
<p>②B子さん 女性・80歳・一人暮らし 軽度の認知症状 料理や漬物、手芸得意 人付き合いが減少…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○移動手段がない ⇒ 買い物支援、移動販売利用 ○生きがいづくり ⇒ 得意な料理や手芸を教える 老人クラブや百歳体操、 趣味の会やサークル活動に誘う 友人などと外出する ○認知症 ⇒ 見守り、話し相手、家事支援、デイサービス利用 県外に住む子供たちとの連絡 ○一人暮らし男性との循環型支援(料理を教える⇔車に乗せてもらう など)
<p>③C吉さん 男性・85歳・介護必要な 奥さんと二人暮らし 野菜作り・地域の歴史に 詳しい・書道得意…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○奥さんの介護疲れ ⇒ 介護サービス利用、ケアマネジャーと相談 ○積雪多い ⇒ 除雪ボランティア利用、集落協定で薪割り提供、ゴミ出し支援 ○移動手段 ⇒ 乗合タクシー利用 ○趣味や特技を活かす ⇒ 子供たちに地域の昔話や歴史・書道を教える ○畑の鳥獣被害 ⇒ 補助金で電気柵設置、地元農家や農協の協力 ○行政・民生児童委員・地域で情報共有



【第3地区(11/10)】



【第4地区(10/23)】

まとめ



高齢になると車の運転をやめたり体の調子が悪くなったり、一人では解決できないことが増えていきます。人口減少や高齢化など社会状況の変化に伴い様々な生活支援サービスも減少していく中で、困った時に「助けて」と言える隣近所や地域との支え合いの必要性を共有しました。助けが必要になった時に困らないように、今から備えておくことが必要です。今一度自分のお住いの地域を見直し、お互いさまの助け合いの輪を広げ、暮らしやすい地域にしていきたいと思います。